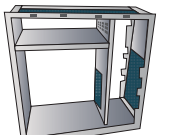


業種別下請関連企業の 現況と見通し



(対象期間 平成15年4月～6月)

業種加工内容	ポイント	現況	見通し
【繊維・繊維製品】 	今期「売上が増加した」が25%から11%に、「利益が増加した」も14%から7%に減少した。操業度を見ても「100%超～120%未満」が37%から19%に減少した一方で「80%超～100%未満」が22%から44%に増加しており、生産余力を生じている企業が増えている。冬物の生産が始まる8月以降に期待したい。	 かなり悪い	 かなり悪い
【合成樹脂製品】 	「売上が増加した」が38%から24%に、「利益が増加した」も31%から18%に減少した。「操業度100%未満」も52%→65%→77%と2期連続で増加しており、全体としては下降傾向にあるが、モールド成形の企業は売上・利益とも「変わらない」としているところが多い。スポット受注の増加を指摘する意見もあり、安定的な受注の確保が難しくなっている。	 悪い	 悪い
【鑄造】 	「売上が増加した」が31%から57%に大きく増加した。「トラック部品が異常に増えている(某回答企業)」ことによるところが大きいが、これはディーゼルエンジンの排ガス規制強化に伴う一過性の受注増と考えられる。一方、「利益が増加した」は逆に25%から15%に減少しており、売上が増えても利益が伴っていないことを示している。	 普通	 悪い
【鉄骨・製缶】 	「売上が減少した」が60%から69%に、「利益が減少した」が67%から81%にいっそう増加した。この比率は3期連続で全業種中最多である。「操業度80%未満」の44%及び「業界全体が下向き」の75%も全業種中最多であり、明るさが見えない深刻な状況となっている。	 かなり悪い	 かなり悪い
【機械加工】 	「売上が増加した」が44%(前回36%)、「利益が増加した」が31%(同28%)とともに3期連続で増加している。しかし、単価及び納期は依然として厳しく「加工機はフル操業だが利益にならない(某回答企業)」という意見も多い。景況感についても「わからない」が14%で全業種中最多となっているなど、夏以降の先行きは不透明である。	 いい	 普通
【プレス・金型】 	「売上が増加した」が55%(前回36%)で5期連続、「利益が増加した」も55%(同32%)で4期連続の増加となっている。さらに、「業界全体が下向き」が60%から10%に激減しており、景況感も大きく改善された。コネクタ金型、デジタルカメラ用金型等が好調である。	 いい	 いい
【金属製品】 	「売上が増加した」が41%から49%に増えているほか、「操業度100%以上」も53%から63%に増加しており、生産活動が活発化していることがうかがえる。表面処理はめっき以外の業種(塗装、研磨等)に好調な企業が多い。精密板金も新規の引き合いがあるなど、今後に期待が持てる。	 いい	 いい
【組立】 	「売上が増加した」「利益が増加した」がそれぞれ23%から28%、15%から26%に増加し、少し明るさが見えてきた。業種別では基板加工及び装置組付を手がけている企業が比較的好調である一方、労働集約型の企業は厳しい状況が続いている。	 悪い	 かなり悪い

天気図は、「下請中小企業経営動向調査」結果並びに下請取引あっせん業務の窓口から見た生産状況、収益性を総合的にとらえたものです。

『精密板金』『表面処理』については『金属製品』に取りまとめています。

「売上の増減」及び「利益の増減」は前年同期との比較、「受注単価の増減」は前3ヵ月との比較です。「操業度」については、所定の勤務時間をフル操業している状態を100%として回答していただいております。

お問合わせ先

取引支援課

TEL 019-621-5385 FAX 019-621-5480

URL <http://www.joho-iwate.or.jp/torihiki/> E-mail sitauke@joho-iwate.or.jp